

学校教育目標	『ふるさとに愛着をもち 豊かな心と社会性を育み 夢の実現を図る生徒の育成』	昨年度の評価概要 ・開かれた学校づくり 有効な保護者参加型行事の実施...A(90%) ・確かな学力の定着 学校支援組織の結成及び連携...A(95%) ・人間関係を深める生徒指導 学期テストで文章での解答や応用問題の出題回数...A(90%) ・生徒会活動の活性化 地域活動やボランティア活動への参加...B(85%) 自治能力や規範意識の向上に向けた行事の実施...B(80%)	中期的目標 ・地域の公民的な機能を果たす学校をつくる。 ・生まれ育ったふるさとに愛着を持ち、地域に貢献できる生徒を育成するために、感動や達成感が味わえる体験活動を実施する。 ・豊かな感性や人間性を身につけた社会人となるための活動を実施する。 ・生徒会活動から自主、自治能力の育成を図る。 ・夢や目標の実現に向けて、主体的で意欲的な取り組みができる生徒を育成する。 ・自ら学び、考え、判断し、行動でき、自分の行動に責任がとれる生徒を育成する。 ・確かな学力の定着を図り、生きる力を育成する。 ・地域や保護者に信頼され開かれた学校づくりを推進する。
--------	---	--	--

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
確かな学力	10分間の朝読書、朝学習の取り組み	小テストなども取り入れて工夫できた。生徒は遅刻も少なく、読書などに意欲的に取り組んでいる者もいた。	A	指導と評価について教科担任との連携を強め計画的に取り組む。 1・2年については、対象生徒個々の放課後の部活動との時間調整が必要である。 成績データ等の分析を進め、今後も習熟度別少数数学習の学習方法を工夫する。 思考力を問う問題と授業との連携を図り、授業の中で力をつけていく。 学校の取り組みを保護者に広報し、家庭と連携して学習習慣の定着をはかる。 授業に対するアイデアを教師が交流できる場・時間を設定する。	朝学習や週末課題レポートなど様々な工夫が行われていることを評価したい。今後は部活動の時間や活動期間の調整をうまく行い、家庭との連携をさらに強化することにより、全体のレベルを底上げして欲しい。
	年間を通して放課後に補習学習を実施 長期休業中に補習授業を実施	3年は計画的・継続的に実施できたが、1・2年は部活動との関係で、定期テスト前を中心にした活動にとどまった。	B		
	習熟度別少数数学習の実施(数学、英語)	習熟度別を実施した結果、学力下位グループ生徒の成績向上が見られた。	A		
	読解力、思考力向上のためのテスト問題の工夫(文章による解答、応用編の問題)	すべての教師が意識して問題作成を行い、テスト後の解答時には思考問題を重点的に解説した。	A		
	家庭学習の定着(家庭での宿題を徹底)	3年間のため教材や「週末課題レポート」では、生徒はしっかり家庭学習に取り組めたが、日常の取り組みが今一步である。	B		
	意欲化を図る授業研究と評価の実施	研究授業には意欲的に取り組めたが、日常的な多忙さにおわれて教師がゆっくりと情報交換することができなかった。	B		
学校、家庭、地域の連携	親や地域を巻き込んだ活動の実施 「模擬店、バザー、学年行事」で年間延べ100人以上に関わってもらう	文化祭では多くの地域の方々に来校いただき盛況であった。学年の行事にも多くの保護者の参加が得られた。	A	学校開放日の授業参観者が少ないので広報活動を充実させる。 今後も学級担任と保護者とのつながりを強めることを主眼に置いて活動する。 年度当初に学校側主体で計画的に支援要請をする。 本年度の取り組みを拡大・継続する。 広報活動を担当できる教師を増やす必要がある。 外部講師や指導者、地域の方々からも活動ごとに意見集約をする。	行事などでPTAの参加が多く、特に、PTA学級委員の協力により各学年がしっかりとまとまっている。また、高い体験や職場体験など地域と関わる活動も積極的に行われており、学校・家庭・地域の連携がとりやすくなっている。ホームページも充実した内容になっており、外部へのアピールもできている。今後は、連携の弱い部分や場面でさらなる強化をのぞむ。
	PTA学級委員を中心とした活動の実施 (各学級、年間1回以上)	全学級でPTA学級委員を中心に主体的に活動し、保護者も生徒も楽しむことができ、また、情報交換もできた。	A		
	サポーター会との連携による生徒の育成 「授業、環境、安全、読書、部活、行事等の支援依頼」	設立初年度で、部活動・行事の支援をしてもらったが、ほかの活動のサポート機会が不十分であった。	B		
	小中の児童生徒および教師間の交流	当初の計画以上に新しい活動に積極的に取り組めた。	A		
	学校通信やホームページ等で家庭や地域へ教育内容についての広報の実施	特にWEBを通して、学校の教育活動を地域・保護者に発信し続けることができた。	A		
	外部評価による学校運営の見直しの実践	学校評議員やPTAの役員会・委員会などで学校運営全般について意見を出してもらい、改善に努めている。	A		
豊かな感性や人間性	感動や達成感がある体験活動の実施 「福祉体験、宿泊体験、沖縄修学旅行、カヤックの旅」	生徒にとってやりがいのある活動であり、学年や全校が一丸となって取り組むことができた。	A	新教育課程への移行を念頭に置きながら活動時間を見直す。 行事の目的や意義を残しながらも活動時間を考慮しなければならない。	各種体験学習では、新しい自分の発見ややり遂げた感動を生徒は感じることができたのではないかと、また、体育祭・文化祭などの行事では仲間とともに分かち合える感動を得られ、相手の立場で物事を見ることができると思う。また、地域・保護者の参加や協力を得ながら取り組むことができた。
	学級、学年の団結や活力を養うための行事の実施 「体育祭、文化祭、校内駅伝」	学級・学年・学校の一体感を生徒が感じることができた活動であり、地域・保護者にも積極的に参加してもらえた。	A		
生徒指導、特別支援	毎月、支援の必要な生徒の情報交換をし情報の共有化を図り 個々の指導計画を立てる	毎月の職員会議中に時間をかけて情報交換を行い、全教職員が支援対象生徒の情報を共有化できた。	A	時間があれば、個々の生徒の情報を事例として研究していく。 生徒を見る目を養うことにもつながり、継続して取り組んでいく。 学校のみならずPTA・地域・サポーター会などを巻き込んだ活動も必要である。 取り締まるだけでなく、事故の事例を示すなどして安全を訴える。 学友会の美化委員会を中心として、生徒自身の力で清掃活動を進める態勢を検討する。 別室が固定化した教室となり、教室復旧が難しくなっており、慎重な対応が必要である。 生活や学習のルールについて小中で交流・共通化を図る。	通学マナーやあいさつについては個人差があるが、町で会ってもあいさつできる生徒が増えたように思われる。また、生徒の指導に対して、学校・地域・家庭がそれぞれもつ役割を考えながら、マナーを向させるために、生徒個々の意識を高める方法を検討していく必要がある。特別支援については個々の生徒への対応を検討しさらに充実させてほしい。一人一人はよい生徒でも、集団になると雰囲気にもまれて間違っただけで、一人一人の心を強くする教育を望みます。
	個々の生徒の把握(学年全体で通知票の所見を検討)	学期末ごとに学年全体で各生徒の通知票の所見を検討し、生徒一人一人を多面的に見るように努めた。	A		
	元氣なあいさつの習慣づけ	部活動などの集団としてはあいさつができるようになったが、個々の生徒をみると個人差がある。	B		
	通学時の安全指導の徹底(ノーヘル等)	ノーヘルは減ったが、並進などの通学マナーが今一步であり、通学危険区域の徹底も不十分である。	C		
	清掃指導の徹底と花一杯学校への推進	指導には力を入れたが、生徒の清掃態度は不十分であった。花壇経営には地道に継続して取り組めた。	B		
	別室での担当教員や支援員による個別対応の実施	支援員が個々の生徒に適切に対応することで、教室には入れない生徒が別室登校を続けることができた。別室の補習授業については慎重な対応が必要である。	B		
進路指導	職場体験活動の実施(2年生)	例年通り充実した活動ができ、普段の学校生活とは違った体験をすることで、多くの生徒が社会性をのばすことができた。	A	新教育課程では総合的な学習の時間が削減されるので、活動を再構築する。 学年の実態に応じた工夫を今後も続ける。	3年間一貫した取り組みが行われており、夢トークや職場体験では一生懸命にがんばっている生徒の姿が見られた。また、地域の人からのアドバイスで目標を持ち自分の進む道を見つけている生徒もいるので、今後も工夫して実施して欲しい。
	社会人から生き方を学ぶ「夢トーク、今津未来本舗」	前年の活動にさらに工夫を加え、生徒の実態に合わせた特色ある活動を実施した。	A		
社会的自立と共生	生徒の地域行事への参画 「琵琶湖周航の歌音楽祭、学区民運動会、エコスクール」	学年や部活動などの単位で参画し、企画段階から地域行事に関わることができた。	A	学友会本部を中心に生徒への広報活動を実施する。 月1回の学友会委員会活動前の委員長と顧問との相談を十分に行う。 文化祭以外の行事や日常の活動についても何らかの形で情報発信していく。 生徒への広報活動を充実させる。 改正後の校則の遵守状況について、学友会が検証活動をする。	学区民運動会では企画段階から参加し、地域とうまに関わられた。また、文化祭では地域の多くの方々に参加してもらい社会的に地域との共生がうまくできているように思われる。今後は、中学生としての発達段階を考慮しながら、様々な活動を個々の生徒の自立と共生に役立ててほしい。
	生徒会の委員会活動の活性化	まじめに取り組んではいるものの、生徒自身からの企画や働きかけがあまり見られない。	B		
	特色ある生徒会行事の実施と広報	特に文化祭では地域を巻き込んだ活動ができ、生徒の力で地域への情報発信をすることもできた。	A		
	ボランティア活動の実施(学友会本部、学年)	外部からの募集に応じて取り組んでいる。特に学童保育に対するボランティア活動は継続して実施できた。	A		
部活動	自治能力の育成と校則の見直し	行事や校則改正については学友会本部を中心に主体的に活動する場面が見られた。	B	指導者間の交流・協力を進めることができた部活動もあった。 指導者の交流の機会を増やす。 サポーター会を通じて指導者を増やしていく。	地域クラブとの関係や生徒の減少による部活動数の縮減などいろいろな課題はあるが、多くの部が県内にとどまらず近畿・全国で活躍し、他の部も刺激を受け活発に活動できた一年間であったように思われる。
	地域クラブと連携した部活動の運営	指導者間の交流・協力を進めることができた部活動もあった。	B		
	各部に社会人指導者を配置	いくつかの部で社会人指導者に関わってもらい、顧問と協力して部活動の運営ができた。	B		

学校関係者評価	総評	学校の様子がわかりやすくなり、マニフェストののちで、学校・地域・家庭が一体となって教育を充実させることがさらに進んだ一年であった。他の学校にはない、また、親が中学生の時代にもなかったような活動が行われ、生徒も積極的にそれに参加し、学業だけでなく人間として成長できる機会が多いように思える。また、保護者も多くの活動に参加しているようで、学校・地域・家庭の連携を考えると、よい傾向であり、今後この方向性を保って欲しい。一方、今一度、学校・PTA・地域・サポーター会の役割については常に検討をしながら活動を進める必要がある。 学力向上については、生徒が自主的に学習に取り組めるように、様々な活動との時間の調整を工夫し、家庭との連携を強めて家庭学習の習慣化を図ることを、さらに進めていく必要がある。また、教師と生徒との信頼関係を深めることで生活面での指導を充実させてほしい。	学校関係者評価を踏まえての改善点 「地域とともに歩む」、「学力向上」。この2点を最重点に進めてきた学校づくりを、今後も継続・充実させていくことが、本校の基本的な方向性である。 行事や体験活動で、地域を巻き込んだ活動を展開する。さらに、本年度発足したサポーター会の活動を次年度は年度当初から計画的に進め、学校側から提案していくことで、学校・PTA・サポーター会の効果的な連携を図っていく。 様々な工夫をして取り組んできた学力向上の取り組みを、学年ごとに担当者を決めて調整し、より効果的な活動をめざす。また、家庭での学習習慣の確立をめざして家庭との連携を深める必要があり、学習の進め方や課題などについて保護者に連絡し協力が得られるように努める。特に課題を抱えた生徒に対しては個別にプランを立てて対応する。
	評価	A	